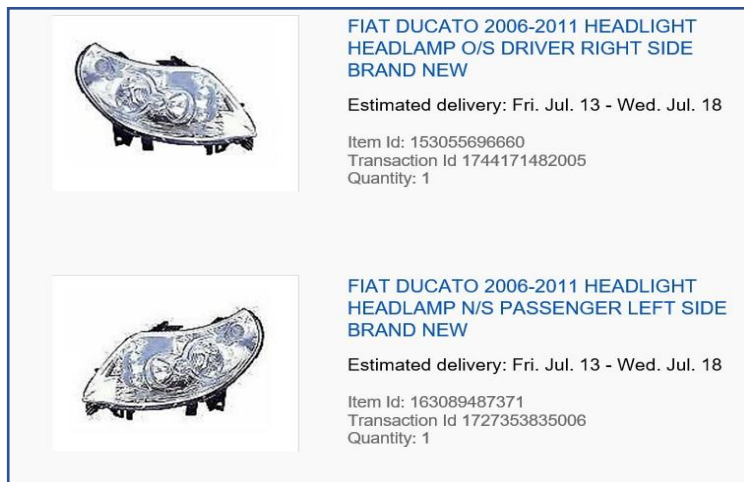


Fiat ducato のヘッドライト交換



2018/07 に E-Bay で購入。

商品は約 1 週間で日本に到着しました。

到着した品物を見るとミラーの形状が右側走行用と左側走行用で違いがはっきり分かりますね。でも、毎日暑くて交換する気になれません。(@79.95£)



涼くなったらやろうと思っていたら、又腰を痛め何と「腰椎椎間板ヘルニア」と診断され年明け 2 月過ぎまでお預けとなりました。(笑)

2019/03、重い腰を上げヘッドライトの交換です。
始めてしまえば、2 時間もあれば終わってしまう作業でした。(笑)



ヘッドライトの上下(赤い矢印)のプラスチックカバーを外します。上部はネジ 2 個とクリップ(ファスナー)で止まっていますので、ネジを外したら思いっきりバリバリっと・・・。



ヘッドライトの下部は、ネジ 1 個と途中 2 カ所に爪で引っ掛けてあり、一番奥は強力なファスナー 2 個で留まっています。ここで重要なのは、途中の 2 か所の爪を上手く外す事かな・・・。



梱包を開けます。向かって左側ヘッドライトを取り外した画像です。

写真右は、向かって左側に新しいヘッドライトを取り付けたところです。右と左で艶が違います。

自動車技術総合機構からのお知らせ

平成29年12月25日

すれ違い用前照灯(ロービーム)の計測手法を見直し、平成30年6月1日から適用します。

平成27年9月1日より、ヘッドライトテストによる審査は原則としてすれ違い用前照灯(ロービーム)を計測することにより行っていますが、当面の対応として、審査機器による計測が困難な一部の自動車(以下「計測困難な自動車」という。))に対して走行用前照灯(ハイビーム)による審査を実施しています。

今般、すれ違い用前照灯による審査の全面施行に向けた前段階として計測手法及び計測困難な自動車を見直すこととします。

【概要】

◆計測手法及び計測困難な自動車を次のとおりとします。

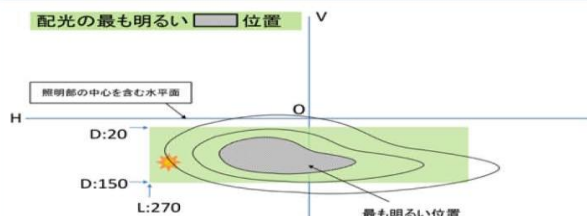
- (1) すれ違い用前照灯の計測において、必ず右側及び左側の両方を計測します。
- (2) (1)による計測の結果、照射光線が他の交通を妨げないものとして、次の①又は②に該当するものに限り「計測困難な自動車」とみなして走行用前照灯を計測することができます。

(注：すれ違い用前照灯の全てが次に該当しない場合は、走行用前照灯の計測は行いません。)

- ① エルボー点の位置(図中「○」)又はすれ違い用前照灯の照明部の中心より右方 1.50° (260mm)及び右方 2.50° (440mm)の鉛直線とカットオフラインが交わる2つの位置(新ロジックの計測位置：図中「○」)が当該照明部の中心を含む水平面より下方にあるもの。



- ② 配光の最も明るい位置が照明部の中心を含む水平面より下方にあるもの。(試験機が測定したカットオフラインではエルボー点を判断できない場合。)



◆対象自動車

平成10年9月1日以降に製作された自動車(トレーラ、二輪車、側車付二輪車、大型特殊車を除く。)

※対象自動車は、すれ違い用前照灯の適切な調整にご協力願います。

ご不明な点についてはお問い合わせください。



独立行政法人
自動車技術総合機構
National Agency for Automobile and Land Transport Technology



千葉県船橋市習志野にある「河原産業・予備車検センター」さんで光軸調整をしてきました。
光軸調整費用は、1,500 円でした。



ヘッドライトの艶（輝き）が違いますね・・。 カットオフラインもバッチリ、これで車検OK！。

なか@船橋